

若宮丸漂流民友の会

会報準備号0-3

平成13年10月15日

発行: 若宮丸漂流民友の会

<http://homepage2.nifty.com/deracine/izj00257@nifty.ne.jp> <大島 幹雄>

0-3号目次

- 若宮丸漂流民の会(仮称)会則(案) 1
若宮丸漂流民の会(仮称)結成準備委員会の報告エラー! ブックマークが定義
されていません。
1. 出席者
 2. 六人の侍-出席者のプロフィール
 3. 若宮丸漂流民の謎にせまる
 - 1)吉郎次の墓はどこにある
 - 2)若宮丸漂流民イルクーツク残留組の子孫はいるのか?
 - 3)レザーノフが持ち帰った日本の本が見つかった
 - 4)『環海異聞』のオリジナルはまだ見つかっていない
 4. 会則と役員案、設立総会、そして名称について

若宮丸漂流民の会(仮称)会則(案)

第一章 総則

第一条 名称

本会は石巻若宮丸漂流民の会(仮称)という。

第二条 事務局

本会は、事務所を横浜市金沢区富岡西2-21-23におく。

第二章 目的と活動

第三条 目的

本会は、若宮丸漂流民について日本および海外での研究・調査を市民レベルでおこない、まだ知られていない若宮丸漂流民についての事実を明らかにしながら、同時にまだ決して広く認知されているとはいえない、若宮丸漂流民のことを多くの人々に知らせていくことを目的とする。

そのために、文献資料の解読と整理、史蹟調査、また日本各地にある漂流民研究会や海

外の研究機関と交流しながら、若宮丸漂流民が果たした役割をグローバルな見地で捉えていく。

第四条 活動内容

本会は、前記の目的を達成するために次の活動を行う。

- 1) 若宮丸漂流民に関する情報の収集、漂流民たちの出自、イルクーツクに残された漂流民たちのその後、墓や子孫の発見などを通じて、若宮丸漂流民研究をすすめる。
- 2) 研究会、講演会の開催
- 3) 若宮丸漂流民に関する資料の刊行及び機関紙の発行(年4回)
- 4) インターネット上での情報の公開
- 5) その他理事会において適当と認めた活動

第三章 会員・会費について

第五条 会員の資格

本会は、若宮丸漂流民に関心がある者は、誰でも会員になることができる。

会員は、一般会員、賛助会員にわかれる。

第六条 会費について

- 1) 一般会員は年会費 3,000 円とする。
- 2) 賛助会員は年会費一口 50,000 円とし、会の経済的基盤を確立し、会の運営を援助する。

第七条 会員の権利及び義務

- 1) 会員は、会の総会に出席し、発言し、表決に参加できる。
- 2) 会員は、会のすべての催しの案内を受け、参加することができる。
- 3) 会員は、刊行物及び会報等に無条件で執筆することができる。
- 4) 会員には、刊行物及び会報等が無料で送付される。
- 5) 会員は、上記の会費を納入しなければならない。二年間の会費未納者は、会員資格を失う。

第四章 役員について

第八条 役員

本会に、次の役員をおく

- 1) 理事 若干名 (会長 1 名、副会長 2 名、事務局長 1 名)

事務局は、事務局長のほかに編集委員、広報委員、史料委員が含まれる

- 2) 監事 若干名

第九条 役員の選任

会長、副会長、事務局長は、総会で選任する。

理事会において適宜、顧問を委嘱することができる

第十条 役員の任期

理事および監事の任期は、2 年とする。ただし再任を妨げない。

任期の中途に就任した理事および監事の任期は、他の役員と同時に終了する。

第十一条 理事の職務

- 1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を執行できないとき、その代行をする。
- 2) 理事は、理事会を構成し、会務を執行する。
- 3) 理事会は、会長が適宜招集し開催する。
理事も会長に、必要に応じ、理事会の開催を要求できる。
- 4) 理事会は、本会則規定事項、総会より付託を受けた事項、その他会務に関する必要な事項を決定するものとし、出席理事の過半数をもって決議する。

第十二条 監事の職務

監事は、会計および会務執行の状況を監査する。顧問は、必要に応じ役員との相談にあずかる。

第十三条 専門委員会

理事会は、必要に応じて専門委員会をおくことができる。委員会の検討事項は、理事会で定める。

第五章 総会

第十四条 総会

会長は、毎年一回、会員の通常総会を招集しなければならない。

総会の議長は、会長またはその指名する理事とし、総会を運営する。

第十五条 総会の権限

総会は、次の議案を決議する。

- 1) 理事、監事の選出
- 2) 会計報告、年度活動計画案の承認
- 3) 会員から提出のあった議案
- 4) 年会費、本会則の変更
- 5) 解散
- 6) その他の事項

第十六条 総会の議決

総会の決議は、出席会員の過半数をもってなす。

第六章 会計

第十七条 会計年度

会計年度は、1 月 1 日から同年 12 月 31 日とする。

第十八条 会計役員

理事のうちから 1 名を会計の責任者として、理事会で互選する。

第十九条 会計報告

会計報告は、年度終了後に開催される通常総会においてなし、総会の承認を得るものとする。

第七章 付則

第二十条 施行日

本規約は、結成総会の日から施行する。

第二十一条 創立年度の会計年度

本会創立年度の会計年度は、結成総会の日から 2002 年 12 月 31 日とする

第二十二条 準備中の費用

本会設立準備中の費用については本会がこれを負担し、創立総会后、この会計を承継する。

若宮丸漂流民の会(仮称)結成準備委員会の報告

1. 出席者

石垣宏(石巻高校教諭)
大島幹雄(デランネ通信主宰)
木村成忠(東北放送ラジオ制作局長)
高橋寿之(文学研究者)
久野義文(石巻かほく記者)
平川新(東北大学東北アジア研究センター教授)

2. 六人の侍ー出席者のプロフィール

簡単に出席者のプロフィールを紹介します。

石垣宏氏は、歴史の教師としてだけでなく、郷土史の第一人者として知られています。若宮丸漂流民研究で先導的な役割を果たしてきています。

大島幹雄は、若宮丸漂流民のひとり善六に焦点をあてた「魯西亜から来た日本人」を著すほか、レザーノフの辞書を発見、さらには昨年は岩波文庫よりレザーノフの『日本滞在日記』の翻訳も出しています。

木村成忠氏は、ラジオドキュメンタリーのプロデュースで数々の秀作を発表、若宮丸漂流民についてはライフワークとして取り組み、『語り伝えよ、我死したることを』、『我にナジェーダあり』の二本の番組を制作しています。

高橋寿之氏は、出席者のなかでは最年少、学習塾を経営するかたわら、文学研究にとりこんでいます。氏のHP『津太夫の世界一周』は、若宮丸漂流民を歴史的に多様な文献をつかい詳細に紹介したものです。

久野義文氏は石垣先生の最初の教え子、石巻かほくを舞台に若宮丸漂流民のことを意欲的に紹介しています。

平川新氏は、日本史がご専門、いまは東北大学が取り組んでいるシベリアを舞台とした日露交流研究プロジェクトの中心となり、ロシア側に残されている日露交流関係の史料蒐集、さらには翻訳出版のプロデュースをしています。

ということでなかなか強力なメンバーが準備委員会に集まったわけです。

3. 若宮丸漂流民の謎にせまる

若宮丸漂流民に関しては、まだまだ解明されないいくつかの謎があります。こうした謎を解くことも、会の大きな目的になると思います。この準備会でも自然にこうした謎について、意見が交換されることになりました。これがなかなか刺激的な内容でした。

1)吉郎次の墓はどこにある

イルクーツクにたどり着いたメンバーのなかで最初に亡くなったのは、最年長の吉郎次でした。この死の模様については、『環海異聞』などで紹介されて、墓のスケッチも描かれてい

ます。そしてこの墓は、このおよそ百年後にドイツ留学から帰国途中、シベリアに寄った日本人が見つめています。果たしてこの墓がいまもあるのか？

これについては、拙著『シベリア漂流』のなかでも紹介しているように、玉井喜作が重要な鍵を握っているように思えます。百年後に吉郎次の墓を発見した小宮は、玉井とドイツ時代に交流があり、小宮を墓に案内したムルケなるドイツ人は、イルクーツクに玉井が滞在した時に、世話になった人間です。おそらくこの墓を最初に発見した日本人は、玉井喜作でしょう。この玉井がドイツ語でいち早く、若宮丸漂流民のことを紹介しています。幸い玉井がイルクーツク時代に書いていた日記は、私の手元にあります。『環海異聞』や玉井の日記などを読み直すことによって、吉郎次の墓のあった場所は特定できるかもしれません。

2)若宮丸漂流民イルクーツク残留組の子孫はいるのか？

ノヴォシビルスクに拠点を置き、日露交流の文献資料を精力的に収集している東北アジア研究センターの平川氏より、たいへん興味深い話が聞けました。この子孫探しについては、すでに研究員に依頼をしており、これについては新聞などマスコミを通じて、市民に捜索をすることになっているとのこと。まだ結果については報告が来ていないとのことですが、成果が待たれます。

また日本とソ連の国交が回復した直後、戦前敦賀領事、函館領事を勤めたキセリョーフが、函館新聞などに、自分の曾祖父は日本人だったと語っていることはよく知られています。キセリョーフと名乗った若宮丸漂流民は、ふたりいるのですが、そのうちのひとり善六の曾孫だと思われます。このキセリョーフのその後を調べることで、子孫の行方もわほかるかもしれません。これも平川氏の話しによると、このキセリョーフは、スターリン時代に粛清された可能性が高いとのこと。シベリアのパルチザンとして活動していたキセリョーフはレーニン派だったと思われます。レーニン派の古老共産党員が、粛清の対象だったことは周知の事実です。ただ他の漂流民に比べて、百年前までは迎えられるのは事実、今後の研究の大きなテーマになりそうです。

3)レザーノフが持ち帰った日本の本が見つかった

レザーノフの『日本滞在日記』を読むと、彼が日本から結構たくさん贈答品をもらっていることがわかります。これらの品物がどこに消えたのか、謎のひとつでした。これについても平川氏より、衝撃的な報告がなされました。すでに東北アジア研究所はレザーノフが日本から持ち帰ったものと思われる日本の書物を発見しているとのこと。他の品物についても、現在追跡中とのこと。

若宮丸漂流民たちも日本にロシアからたくさんものを持ち帰ってきています。そのうちのひとつ、太十郎の上っ張り(ジャケット)は、いまでも室浜の奥田氏が保管しています。この他のものはどこに消えたのか、これは今後地元を中心に調査する必要があると思われます。

4)『環海異聞』のオリジナルはまだ見つかっていない

若宮丸漂流民に関する文献資料は、たくさん残されています。まず『環海異聞』の写本は全国各地に残されています。しかしこのオリジナルはまだ発見されていません。石垣氏の話によると、大阪のある銀行がそれらしきものを持っているとのこと。これも是非見てみたいし、オリジナルか写本なのか、調べなくてはならないでしょう。

また『環海異聞』とは別な視点から、若宮丸漂流民について書かれた異本が、これもまた全国的に流布されています。石垣氏の話によると、こうした異本のルーツは、三つあるとのこと。ひとつは、『環海異聞』ルート、二つめは、長崎での取調べ記録ルート、もうひとつは故郷に戻ってきた津太夫が語ったことがらを筆記したものです。会の活動のひとつとしてこうした写本、異本を集中的にまず集めることが必要かもしれません。

この他にも、高橋氏からは、若宮丸漂流民たちがオホーツクからイルクーツクまでの行路はどうなっているのだろうかという疑問も出されました。まだまだ若宮丸漂流民については多くの謎が残されています。また二百年前の日本とロシアを結んだ、若宮丸漂流民の謎解きには、人間と歴史のロマンを繙く、愉しさもあるかもしれません。

そんなことをひしひしと感じた有意義な準備会だったと思います。

4. 会則と役員案、設立総会、そして名称について

六人でこうした謎解きについて意見交換したあと、会の骨格について話し合いました。会則の案については、ここで紹介してあるとおりです。まだ決定ではありません。理事のメンバーでさらにつめ、さらには皆さんからのご意見を参考にしながら、総会で決めたいと思います。

役員については、会長石垣氏、副会長木村氏、平川氏、事務局長大島という線で、進めたいと思います。

名称についてはいろいろ意見が出され、これもまだ決定には至っていません。研究会というのは固すぎるし、友の会というのもちょっとちがうかもしれないということで、暫定的には若宮丸漂流民の会ということでとりあえずは進めていき、総会前までに最終決定することにしました。

その総会ですが、12月8日(土)午後2時ぐらいから、場所は石巻文化センターで行うことに内定しました。詳しくはまた最終決定してから皆さんにご報告いたします。すでに会員になりたいという方が何人かいらしていますが、この日会場で会員手続きをしてもらうことになり、それ以降入会案内を各方面にお配りしたいと考えています。

この日は事務的なことの取り決めを行うほか、大島幹雄が若宮丸漂流民に関して、講演をする予定になっています。また石垣氏から、県内に在住する若宮丸漂流民関係の子孫の方にも集まってもらったらいいですね、という意見も出されました。ぜひ呼びかけて多くの方に集まってもらいたいと思ってます。

こうして六人の侍たちが集まったことで、会のすすむべき道筋がかなりはっきりと見えてきたような気がします。12月の設立総会に向けて、一步一步進んでいきたいと思います。